

科目名: 言葉 (指導法) (演習1単位)		担当者: 小野 紀子	使用テキスト: 『子どもと言葉』 (明文書林)
授業の到達目標及びテーマ: 言葉の機能及び子どもの言葉の発達段階の理解に基づいた対応と、文化財を利用した援助の方法を学ぶ。			
授業の概要: 保育の場において保育者として子どもの言葉の育ちにどのように関わっていくのか、いけるのか。言葉の機能、子どもの言葉の発達段階を理解させ、子どもの言葉の育ちへの関わり方・援助の仕方について学ぶ。			
回	項目	内容	
1	オリエンテーション	言葉とは何か、人間の自己表現の手段として最も普遍的な言葉について、保育・教育の場における子どもの言葉の発達を理解し、育ち対応の在り方を考え深めていく。	
2	第1章 人の生活と言葉	I 言葉とは何か 1. 考える働きについて 2. 共有関係の成立 3. 行動の調整 4. 感情への働き	
3	人の生活と言葉	II 言葉が人間生活の中で果たす役割・機能 1. 話す・聞くこと 2. 読むこと 3. 書くこと III 乳幼児の言葉の特色	
4	第2章 乳幼児期の言葉の発達と環境	I 子どもの発達と言葉の発達 1. 初語のころまで 2. 一語発話のころ 3. 二語発話のころ	
5	乳幼児期の言葉の発達と環境	4. 「コレナーニ」の質問のころ 5. 想像遊びが盛んなころ 6. 生活に言葉が定着するころ 7. 6歳以降	
6	乳幼児期の言葉の発達と環境	II 言葉の発達と環境 1. 人とのかかわり 2. 子どもの生活 3. 遊びなど	
7	乳幼児期の言葉の発達と環境	III 言葉の面にあらわれた問題の理解と園における対応 1. 発音が独特である 2. 声か独特である 3. 吃音 4. 口蓋裂 5. 言葉の発達の遅れ 6. 話そうとしない等	
8	第3章 領域「言葉」のねらいと内容	I 幼稚園教育要領 II 保育所保育指針等 III 言葉と他領域 1. 幼稚園教育要領における領域 2. 保育所保育指針における領域	
9	第4章 領域「言葉」の具体的な内容	I 聞く力を育てるために II 言葉による表現を豊かにするために III 考える・想像する力を育てるために IV 標識や文字などへ興味や関心を育てるために	
10	第5章 言葉かけを中心とした援助とかわり	I 0. 1. 2. 3歳児と 保育者のかかわり 1. 0歳児とのかかわり 2. 1歳児とのかかわり 3. 2歳児とのかかわり 4. 3歳児とのかかわり 5. 年少児と年長児	
11	言葉かけを中心とした援助とかわり	II 4. 5歳児の活動と保育者のかかわり 1. 集団活動の中での言語活動 2. 保育者の援助とかわり 3. 文字への興味の発達	
12	第6章 児童文化財を通しての援助とかわり	I 「お話」 II 「絵本」 III 紙芝居 お話の選択と留意点 子どもの発達と絵本 紙芝居の特徴	
13	児童文化財を通しての援助とかわり	IV 「パネルシアター」 V 玩具 VI テレビ等 様々な素材の特徴とその活用法について実践を通して学ぶ	
14	第7章 言葉の育ちをとらえる視点	I 育ちをとらえる視点 1. 自己表現としての言葉の育ち 2. かかわりを持つとする言葉の育ち 3. 相手の言葉を受けとめようとする心の育ち 4. 生活用語としての言葉の育ち 5. 考える力の育ち II 保育評価の生かし方	
15	まとめ	子どもの言葉の育ちと保育者のかかわりについて再確認する。 自身の言葉に関する意識と感性の確認・保育者としてのかかわりに対する責任感	
参考資料: 『幼児期』 岡本 夏木 『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』 等 『感性を育てる保育実践』 待井 和江 他 『子どもはことばをからだで覚える』 正高 信男 『保育内容指導法—言葉—』 田上 貞一郎 他 『ちいさい言語学者の冒険』 広瀬 友紀			
学生に対する評価方法: それぞれの課題に対する取り組み内容・提出物・まとめの期末試験結果による。			